

校長室より

令和4年10月12日(水)

「村上選手の偉業」



プロ野球、ヤクルトの村上宗隆選手が3日、神宮球場で行われたDeNAとの試合で56号ホームランを打ちました。これで巨人の王貞治さんが昭和39年にマークしたシーズン55本を58年ぶりに上回り日本選手最多となりました。

しかし、村上選手は55号のホームランを打ったあと、13試合にわたってホームランを打てていなかったため、プレッシャーは大変なものだったと思います。

村上選手は試合後のインタビューの中で、「(ホームランの)手応えはばっちりだったし、タイミングもしっかり合っていたのでよかった。やっと打てた、長い1本だったと思い、ほっとした。」と重圧から解放されたように話しました。続けて、「(プレッシャーは)ないと言えましょう。いろいろな人からたくさんの励ましのことばをもらうが、僕にしかわからないこともあるので僕自身が向き合って僕自身で解決することが一番。優勝やその試合に勝つとか、その打席で打つとか、こういう記録に挑むといういろいろな方面でのプレッシャーはたくさんありましたけど、それもすべていい形で終わることができてうれしいですし、また1つ自分の中で成長できたかなと思います。」と語っています。

22歳の村上選手。4番打者には自分の成績がチームの勝敗に直結する大きな責任があります。村上選手は若くしてその重圧をはねのける心の強さも身につけました。その心の強さについては「目の前で相手に集中して対戦できているし、悪いスイングもいいスイングも引きずらずに打席に立てている。去年まではこういう気持ちはなかった。」と精神的な成長を実感しています。

55本で並んでいた王貞治さんを超えたことについては「偉大な方の記録を破ることができて、すごくうれしいが、いろんな先輩方は、もっと凄い偉業を成し遂げています。」と謙虚な気持ちも忘れていませんでした。来シーズンも村上選手の活躍に目が離せませんね。おめでとう!村上宗隆選手。